

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「すべてのいのちにとって 安心・安全な教会」

— セーフ・チャーチに取り組むことの意義 —

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

「これによって、私たちは真理から出た者であることを知り、神の前に心を安らかにされるのです。」

(Iヨハネ3:19、聖書協会共同訳)

先日、世界宗教者平和会議日本委員会(WCRP)の「ストップ!核依存タスクフォース」主催で、「核に依存しない世界を目指して—宗教対話・協力による新たな貢献—」と題してオンライン学習会が行なわれました。被爆体験者の証言に始まり、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のベアトリス・フィン事務局長のメッセージや核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)日本の事務局長、共同通信「メディア戦略」編集長らの発題、カトリック・天台宗・ムスリムの宗教者からの発信など盛りだくさんの内容でした。

2021年に発効した「核兵器禁止条約」は、核兵器は「非人道兵器」であり、その開発・保有・使用あるいは使用の威嚇を含むあらゆる活動を例外なく禁止した国際条約ですが、唯一の被爆国である日本はまだ批准していません。カトリックのバチカン市国は最初の批准国となり、フランシスコ教皇は、核兵器の保有が不道徳であると同様に、戦争目的の原子力の使用も、単なる保有も非道徳的であり、環境を破壊するものであると明言しています。ロシアによるウクライナ侵攻の中で、「核兵器の使用」という言葉が現実味を帯びる信じがたい世界情勢の中で、宗教者が倫理的な観点、いのちの尊厳という視点から非核を呼びかけ、尊敬の念をもって対話し続けることの必要性が強調されました。また、活字離れが進む現代において、SNS等による呼びかけ、特に短い動画による発信が有効ではないか、多くの方は、あの方が言っているのだから、あの団体が言っているのだから信頼できるという感覚持っているのではないかと指摘がありました。

なぜ宗教者が、戦争や核兵器、原発や様々な差別の問題に関わるのでしょうか。それは、一人ひとりのいのちを等しく大切にすること、地域に生きる人々や世界のあらゆる人々のいのちを覚えて祈り

□会議・プログラム等予定

(2022年10月25日以降・前回未掲載分)

10月

- 19日(水) 収益事業委員会 [Web]
- 25日(火) セーフ・チャーチ WG [Web]
- 26日(水) 正義と平和・憲法プロジェクト会議 [Web]
- 27日(木) 青山墓地清掃・墓参の祈り [外苑前]

11月

- 1日(月) 聖公会センター検討チーム会議 [Web]
- 4日(金) 教役者遺児・建築金融資金運営委員会 [管区事務所+Web]
- 4日(金) ~5日(土) 拡大青年担当者の集い [東京]
- 9日(水)・(木) 宣教協議会会場下見 [清里]
- 11日(金) 正義と平和委員会 [管区事務所]
- 14日(月) セーフチャーチ WG [Web]
- 15日(火) 聖公会センター打ち合わせ [Zoom]
- 17日(木) 宣教協働者招聘委員会 [Web]
- 18日(金) ハラスメント防止・対策担当者会議 [Web]
- 21日(月) 正義と平和・憲法プロジェクト会議 [Web]
- 29日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議 [Web]
- 30日(水) 主事会議 [管区事務所]

12月

- 6日(火) 常議員会 [管区事務所]
- 8日(木) ~9日(金) 各教区人権担当者の集い [横浜]
- 9日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会 [立教+Web]
- 12日(月) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]
- 14日(水) 人権問題担当者会 [Web]
- 19日(月) ナザレ委員会 [Web]

(次頁へ続く)

※管区事務所の就業時間

当面の間、新型コロナウイルス対策のため、就業時間を平日(月曜日~金曜日) 10:00~17:30 といたします。

行動する者、すべての人の幸せを願う者だからです。その宗教者たちの後ろ姿にあこがれを抱いて信じるようになったという方も多いのではないのでしょうか。

また今、世界の聖公会全体で「セーフ・チャーチ」という概念を大切にする取り組みがなされ、教会が誰にとっても安全で安心できる存在であるための指針が整えられつつあります。そこには、「教会ではハラスメントや差別は起こるはずがない」のではなく、教会だからこそ差別やハラスメントが起こりやすい環境がある、そのことを覆い隠そうとせず、誠実に悔い改めて向き合うことが大切だとされています。自分のいのちだけではなく、他者のいのちも神さまが造られた愛されるべきいのちであることを認め合うことが、安心・安全な教会となっていく秘訣なのだと思います。すべてのいのちにとってのセーフ・チャーチという感覚が、魅力的な教会となり、たくさんの人々が入り出す活発な教会となっていくのではないのでしょうか。



□主事会議

第67(定期)総会期第1回 2022年9月21日(水)

<主な報告・協議>

1. 管区事務所主事会のもとにある各主査について、以下の通り承認した。
宣教主査：司祭 松浦 信(北関東)
渉外主査：司祭 ポール・トルハースト(神戸)、八幡眞也(東京)
広報主査：司祭 永谷 亮(北海道)、阪田隆一(横浜)、吉村登志子(横浜)
財政主査：久保田秀雄(横浜)、橋詰弘道(東京)、中林三平(横浜)、前澤弘之(東京)、山中 一(東京)
2. 第67(定期)総会の決議事項やその後の対応などについて、確認した。
3. 社会事業の日の信施奉献先の選定について、日本聖公会社会福祉連盟からの推薦に基づき、「博愛社地域小規模児童養護施設『つむぎ』」を奉献先として承認した。

次回会議：2022年11月30日(水)

□常議員会

第67(定期)総会期第2回 2022年10月17日(月)

<主な決議事項>

1. 長崎聖三一教会の基本財産変更に関して、「長崎聖三一教会の土地転貸契約にともなう、教区規則の変更」(67総会で決議・承認)に先立つ基本財産変更(聖公ビル)の建物解体をメール稟議により承認し、追認した。
2. ナザレ修女会の残余財産寄附後の資金と委員会の設置に関して協議し、「ナザレ資金」と「ナザレ委員会」の設置を承認し、①資金管理、②土地・建物の維持管理、③エビファニー館に関する維持管理、④土地・建物の利用を含む将来構想を委員会のタスクとすることを確認した。5年間は現状維持という修女会決議による移譲条件期間は、常議員会のもとにある委員会とし、メンバーは、高橋宏幸主教(東京)、上田亜樹子司祭(東京)、北川規美子さん(大阪)、植松功さん(東京)、八木達郎さん(東京)に依頼し、今後近隣教区の委員を補充していくこととした。ウェハースの制作については、今後も継続する方向で調整していくことを確認した。スピリチュアリティとホスピタリティを大切にしたい。
3. 東日本大震災の余震で被災した東北教区の

(前頁より)

<関係諸団体会議・他>

- 10月28日(金) 狭山市民集会・キリスト者前段集会〔日比谷〕
- 29日(土) WCRP ストップ!核抑止TF 公開講演会〔Web〕
- 31日(月) 聖公会神学院諸聖徒日感謝礼拝〔用賀〕
- 11月1日(火) NCC 役員会〔Web〕
- 3日(木・休) 東北教区主教選挙〔仙台〕
- 8日(火)・9日(水) 文化庁・東京都主催宗教法人実務研修会〔一橋〕
- 12月9日(金) 日本キリスト教連合会常任委員会〔Web〕



📍管区事務所冬期休業

12月29日(木)～1月5日(水)まで冬期休業いたします。よろしくお願ひいたします。緊急の場合は総主事まで。

教会・施設の修復に関して、2021年10月の常議員会において支援を決議し、金額が定まっていなかった修復費用12,335,209円のうち、緊急災害支援資金の「東日本大震災被災教会・施設修復のため」の残金12,212,889円の全額を支援することを承認した。

次回以降会議:12月6日(火)、2023年2月27日(月)

□各教区

北海道

- ・第82(定期)教区会 2022年11月22日(火) 15時～23日(水・祝)15時 北海道教区主教座聖堂(札幌キリスト教会)
- ・聖職按手式 2022年11月23日(水・祝)8時 北海道教区主教座聖堂札幌キリスト教会 説教:司祭 パウロ佐々木道人 執事按手志願者:聖職候補生 エリザベト三浦千晴

東京

- ・第141(定期)教区会 2022年11月19日(土)13時～17時 聖アンデレ主教座聖堂

横浜

- ・第84(定期)教区会 2022年11月23日(水・祝)10時～16時 議長会場:横浜聖アンデレ主教座聖堂 会場:横浜聖アンデレ教会・鎌倉聖ミカエル教会・小田原聖十字教会・柏聖アンデレ教会・千葉復活教会・静岡聖ペテロ教会・甲府聖オーガスチン教会

中部

- ・第94(定期)教区会 2022年11月23日(水・祝)10時～16時 Web会議システム
- 【議長・書記局】中部教区センター
- 【愛岐伝道区】主教座聖堂名古屋聖マタイ教会
- 【長野伝道区】松本聖十字教会
- 【新潟伝道区】長岡聖ルカ教会

京都

- ・第119(定期)教区会 2022年11月23日(水・祝)9時～17時 京都教区主教座聖堂および京都ガーデンパレス

大阪

- ・第129(定期)教区会 2022年11月23日(水・祝)9時～17時 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)

九州

- ・第118(定期)教区会 2022年11月23日(水・祝)8時半～16時半 九州教区主教座聖堂、教区センターおよび後日会場を指定。Zoomによるオンライン開催。

沖縄

- ・第72(定期)教区会 2022年11月22日(火)18時～21時、11月23日(水・祝)8時半～15時 沖縄教区センター

□神学校

聖公会神学院

- ・諸聖徒日感謝礼拝 10月31日(月)13時半～ 聖公会神学院諸聖徒礼拝堂 司式:理事長 主教 武藤謙一(九州) 補式:校長 司祭 中村邦介 説教:主教 高地敬(京都)



†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ステパノ高橋正平(神戸教区・退職) 2022年9月11日(日)逝去(75歳)

司祭 アンデレ佐藤 徹(京都教区・退職) 2022年10月4日(火)逝去(88歳)

司祭 ルカ伊神 努(神戸教区・退職) 2022年10月8日(土)逝去(78歳)

*お詫びと訂正

『管区事務所だより第378号』17頁に掲載されている牛島幹夫司祭寄稿の記事タイトル「長崎平和礼拝の報告」は原稿と違っておりました。お詫びして以下のように訂正いたします。(正)「長崎原爆記念礼拝 報告」

《人事》

東京

聖職候補生 ウィリアムズ藤田 誠

2022年10月1日 公会の執事に按手される。
2022年10月1日付 目白聖公会牧師補に任命する。

京都

司祭 ヨハネ荒木太一

2022年10月1日付 願いによって復職を許可する。主教座聖堂付とする。大津聖マリア教会での礼拝協力を命じる。



2022.10.23
聖職降臨後第20主日

社会事業の日

(本年仮告書献金)
(福) 母愛社 (大阪府淀川区)
地域小規模児童養護施設、建物修繕および
地域福祉活動支援 (大阪聖三一教会と協働) 御ため

「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」
「隣人を自分のように愛しなさい。」 (マタイ22:37・39、聖書協会共同訳)

小規模児童養護施設「つばき」

日本聖公会



人権活動を
支える主日
2022.11.27
降臨節第1主節

寄留者を虐待してはならない。抑圧してはならない。
あなたがたもエジプトの地で寄留者だったからである。
(出エジプト記22:20)

日本聖公会

『聖公会手帳』 2023

各教区事務所・教務所の協力のもと刊行いたしました!



☆日本聖公会
管区事務所責任編集

好評発売中

大判型	2,200円
ポケット版	1,200円
	(税込)

ご予約はお早めにバイブルハウス
南青山 (03-3567-1995) またはお近
くの書店まで!

- ※ 読者アンケートからの利用者の声を誌面に反映。
- ※ 2023年度 教会暦・日課表を完全収録。
- ※ 祈りのページを大幅に増補。

(写真はイメージです)

第8回ハラスメント防止・対策担当者会

管区ハラスメント防止・対策担当者 司祭 アモス 金 大原

10月1日(土) 午前10時～12時半に、各教区の担当者と管区の正義と平和・ジェンダープロジェクト、女性デスク等が出席した中で、第8回ハラスメント防止・対策担当者会が行なわれた。

最初に開会礼拝がささげられた。管区担当者である金大原司祭は、「見失った羊のたとえ」(マタイによる福音書18:10～14)を持って、「信仰の感受性」の大切さを強調し、各教区のハラスメント防止担当者は、働中で信仰的感受性を失っているのではないかと絶え間なく省みるべきであり、その働きによって、イエス・キリストの愛が伝えられ、信仰が強められるようにと願った。

報告Iでは、管区宣教主事である卓志雄司祭の司会で、前回担当者会からの取り組みについて、すなわちハラスメント相談の有無、ハラスメント防止研修の取り組み、組織の整備などについて報告しあい、各教区の状況を分かち合った。委員会が立ち上げられたばかりで、実際に問題が発生した場合の相談システムの機能や対応方法を研究している教区があり、相談件数が1件もなく研修会をも計画中の教区があれば、すでに多様な経験を積み、調査過程における二次加害検証報告を出した教区もあったので、オンラインなどを通して情報を積極的に分かち合うことにした。

報告IIでは、人権問題担当主教の入江修主教から、ランベス会議2022の呼びかけの中で2番目に取り扱われたセーフチャーチに関する内容が詳しく報告され、また、管区担当者である西原美香子さんからセーフ・チャーチ・ガイドライン日本聖公会版の進捗状況について、第1ステップとして各教区の主教・常置委員・ハラスメント防止

担当者へ、第2ステップとして全教役者への周知とフィードバックを経て原案を作成し、今は第3ステップとして信徒の皆さんにガイドライン原案を提示し、フィードバックを受ける段階へ進めつつあり、2023年2月頃に日本聖公会版のセーフチャーチガイドライン確定・発行を目標としているとの報告があった。

全体協議では、セーフ・チャーチ・ガイドラインについて、日本の文化に合わせて言葉を選び、その言葉とこのガイドラインが提案された経緯を説明してほしいという意見が多く、ハラスメント防止については、組織が活性化している教区から各種の規定や実際の組織運営に関する情報を提供し、オンラインで積極的に情報を交換することとした。また管区で制作されたハラスメント防止研修関連動画を活用して、教区レベルだけでなく、小グループのハラスメント防止研修をも行なって欲しいという案内があった。

各教区の現状はそれぞれ違うが、皆で協力し合って日本聖公会を誰でも安心して信仰生活を送ることができる教会にしていこうと意志共有をし、最後に、皆で聖歌を歌い、入江修主教の閉会の祈りと祝福をもって終了した。

peace

聖公会生野センター 30周年感謝記念礼拝と

今日までのあゆみ

日本聖公会大阪教区主教 アンデレ 磯 晴久
(聖公会生野センター理事長)

主の平和をお祈り申し上げます。

いつも聖公会生野センターの働きを憶え、お祈りとご支援を賜り、心から感謝申し上げます。去る10月10日(スポーツの日・月)午後1時30分から、プール学院メアリーズホールにて、2022大阪教区礼拝・聖公会生野センター30周年記念感謝礼拝をお献げすることができましたことを、ここにご報告させていただきます。

テーマは、「そこにキリストは共にいる」、そして主題聖句には「弱った手に力を込め、よろめく膝を強くせよ(イザヤ35:3)」を掲げて、およそ350人の兄弟姉妹や関係者、支援者、協働者が参集、礼拝・シンポジウムを行ないました。司式は、武藤謙一首座主教、植松誠主教、磯主教、説教者は李京浩主教(大韓聖公会議長主教・ソウル教区主教)がご奉仕くださいました。お一人お一人の名前をご紹介できませんが、大韓聖公会教役者、大阪でこの時開催されました在日韓国出身教役者修養会参加者、大韓聖公会青年、日本聖公会各教区・管区の皆さまが参集くださり、そして大阪教区教役者・信徒・求道者が集い、新型コロナウイルス禍の下、長くできなかった対面での大きな礼拝を守ることができました。

礼拝の中で、福音書は日本語と共にハングルで読まれ、聖歌もアンセムを含め2曲の大韓聖公会聖歌が賛美されました。(大韓聖公会聖歌第373番「雨と降れよ 大地に」 聖歌564番「来ませ来ませ 平和の王」)大韓聖公会の皆様もこの聖歌を聴き、歌い大変感動したと、礼拝後感想を述べておられました。

そして、本紙において何よりも、日本聖公会の皆様と分かち合いたいのは、礼拝の中でさげられた「聖公会生野センター ミッション・ステートメント 2022」です。

- ① わたしたちは、小さくされた人々、弱くさせられている人々の声を聴きます。
- ② わたしたちは、イエス・キリストの愛に倣い、共に生きる新しい社会を目指します。
- ③ わたしたちは、差別、抑圧、戦争を無くすために働きます。



記念礼拝の様子

- ④ わたしたちは、他民族、多文化にある人々とつながって生きていきます。
- ⑤ わたしたちは、痛みを背負わされてきた人々と共に歩むイエス・キリストの十字架を共に背負います。

30周年を感謝する礼拝でしたが、このミッション・ステートメントを胸に、新しい一歩につながる礼拝を守ることができたのではないかと私は感じております。

礼拝後のシンポジウムでは、松原恵美子姉（堺聖テモテ教会信徒）が青年時代からの聖公会生野センターとの歩みから語ってくださり、続いて井田泉司祭（京都教区・退職）は、聖ガブリエル教会の歩みと宣教協働40年を迎えようとする大韓聖公会との歩みから語っていただきました。そして池住圭姉（中部教区・教区代表）は地域活動に長年関わってこられた中から、活動を通しての出会いと地域作りの重要性について発題下さり、それぞれに聖公会生野センターの今後の歩みについて期待を語っていただきました。

さて、聖公会生野センターの働きを語る時に、聖ガブリエル教会と創設者張準相（張本栄）司祭のことを語らないわけにはいきません。張司祭は1900年朝鮮で生まれ、31独立運動に参加、官憲に拘束されその後、立教大学で学べれます。1923年関東大震災で朝鮮人虐殺を目の当たりにし、奈良に行きます。奈良基督教会吉村長老に命の危機を救われ、これを契機に聖職の道を歩みます。1925年大阪で朝鮮人会衆の集会を始めます。宣教は順調に進み教会を設立、しかし太平洋戦争勃発と共に教会は閉鎖、張執事（当時）も拘束・拷問を受けます。戦後も教会の復興は困難を極め、張執事が司祭按手を受けたのは1956年、神学校卒業から31年が経っていました。

1966年張司祭逝去後は、ご家族によって教会が守られてきました。1984年、第1回日韓聖公会セミナーが開催されたときに韓国側から聖ガブリエル教会復興の提案がありました。これから日韓聖公会協働のプロジェクトが始まり、1992年生野区小路東に教会が再建、同時に地域に奉

仕する「こひつじ乳児保育園」と地域の人々に仕える「聖公会生野センター」が開設されました。聖公会生野センターは、張司祭のお働きの中から生まれたセンターであり、聖ガブリエル教会が母教会と言っていいセンターなのです。

活動が進むにつれて、手狭になった聖公会生野センターは現在の生野区小路に移転しました。聖公会生野センターは、管区、各教区、大阪教区と連携しつつ、更に在日高齢者、障がい者の居場所、生野地域での街作り、日韓交流と幅広く、活動を続けていきます。

最後に、李京浩主教のメッセージの一節をご紹介します。私の報告とさせていただきます。

「・・・使徒聖パウロは、明らかに、断固として『キリストはわたしたちの平和であります』と宣言しています。誠にその通りであります。私たちは十字架の愛、十字架の道、十字架の知恵と救いの力を信じて生きています。私たちは、十字架を通して、神様が進めておられる神様の救いと平和、そして和解のため生きる信仰者の群れです。主イエスを信じ、仰ぐ人々がキリストにあってユダヤ人と異邦人の隔ての壁を無くしたように、私たちは日本と韓国との間にある隔ての壁を無くして主の平和のために共に働く群れです。聖公会生野センターは、主の平和に与った人々が、主の平和の実現のために働く家です。・・・」

皆様のさらなるお祈りとご支援を、協働を、よろしくお願い致します。



聖公会生野センター

在日韓国出身教役者の集いの報告

— 生野センター 30周年記念礼拝に参加 —

大阪教区 司祭 アモス 金 頭昇

2022年10月10日に開かれた大阪教区の生野センター30周年記念礼拝への参加のために、在日韓国出身教役者は10月9日から12日までの予定で集まりました。9日の夜に、夕の祈りを始め、東京教区からアモス金大原、ナタナエル池星熙、シモン林永寅、ステパノ卓志雄、ヨナ成成鐘、横浜教区からテモテ姜暁俊、沖縄教区からイザヤ金汀洙、クララ咸允淑、ベネディクト高英敦、ドミニカ朴美賢、大阪教区からモーゼ任大彬、マルチン韓相敦、ステパノ柳時京、アモス金頭昇まで総勢14名です。管区からは矢萩総主事司祭もいっしょに祈りました。

大韓聖公会からも今回の礼拝を祝うためにペテロ李京浩議長主教を始め教務院長ペテロ崔俊基、日韓協働担当パウロ崔敦淳、済州友情教会ヤコブ蔡昌完の計4名の聖職が来てくれました。また、19名のソウル教区の青年たちとともに夕の祈りに参加しました。

夕の祈りを通して今までの牧会をお互いに励まして、これからの牧会を応援しました。大阪の中心で韓国語でささげた夕の祈りでした。今まで人と人之间には国籍、言葉、文化、歴史など越えなければならぬ境界線がありました。天の神様に向う私たちの祈りは、空（そら）のように境界線がありません。私たち聖公会は境界線を越え、空のような信仰を守っていると感じました。

10月10日、午前には大阪教区城南キリスト教会に集まり、会議を行ないました。大阪教区磯主教さまの挨拶をはじめ、矢萩総主事司祭の説明で会議が行われました。今後、在日韓国出身教役者は何をするかを議論しました。2024年管区宣教協働者招聘委員会の終了と管区内での

在日韓国協働者招聘委員会の役割、そして今後の課題まで、それぞれの意見がありました。ただ一つ、日本聖公会と教会のために最善をつくしていることを感じました。

午後は大阪教区のプール学院に移動しました。生野センター設立30周年記念礼拝でありまた、コロナで長く止まっていた大阪教区の礼拝でもありました。コロナ感染症が広がって以来、今までの沈黙を破り、みんな一緒に主を賛美し、主の祝福された生野センターを思いっきり祝福しました。生野センターとその心強い友人である大阪教区は、日本聖公会、さらに世界の教会と北東アジアにどういう意味を持つのか、そして私たちの宣教がどこに向かうかを考えました。

大阪校区が準備した夕食には大阪教区の磯主教さまと首座主教である武藤主教さまと前首座主教である植松主教さま、韓国の議長主教である李京浩主教さま一行が集まりました。交わりの時を分かち合いました。礼拝の中では話さなかった生野センターの話や宣教の意志、そして日韓聖公会の友情を再び確認できました。

11日は午前中に生野センターと生野地域のフィールドワークを行ないました。日本で在日朝鮮人が最も多く住んでいる地域である生野地域を歩き、必要な場所に必要な宣教が行なわれている現場を見ました。呉光現総主事の案内により、在日韓国・朝鮮人と生野センターの歴史と活動を勉強しました。

午後には神戸に移り、神戸教区聖ミカエル教会を見学しました。その後、駐神戸大韓民国総領事館を訪問して総領事の梁起豪さんから総領

事館の働きについてお話を伺いました。ちなみに梁起豪さんは韓国の聖公会大学校の教授で聖公会の信徒です。

12日は今回の集まりを終え、お互いの現場で最善を尽くすことを約束し、次に会える日を準備しました。また、いつか、神様の空の下のどこかで。



在日韓国聖職者の集い

世界の聖公会の動向

- ☆ 新主教が按手の6日後に逝去(タンザニア聖公会)
- ☆ うつ病と共に生きる人々をサポートする教会主催のコース
- ☆ アングリカン・コムニオン常任委員会、「希望と高揚感」と共に会合をスタート

管区渉外主査
司祭 ポール・トルハースト

○新主教が按手の6日後に逝去

タンザニア聖公会ムプワプワ教区の新主教に就任されたジョージ・チテト主教が、按手後わずか6日目に逝去された。ジョージ新主教は59歳で、ムヘザのキリスト教会で執り行なわれたジュリアス・ルゲンド主教の妻ヒルダ・ルゲンド氏の葬送式で説教をした後、着席したところで心停止された。

直前の説教の中で、主教は会衆にキリスト教の価値観に従って生きるように語りかけていた。天国について「その地は準備を整えています。さ

あ、行きましょう」と語り、座したまま逝去されることとなった。

タンザニア聖公会のスポークスマンによると、ジョージ主教は説教の中でヒルダ・ルゲンド氏の穏やかな最期について触れ、次のように述べた。「私に死が訪れる時もルゲンド夫人と同じように、どこまでも安らかに無痛のものであるように願います」

ジョージ主教の聖職訓練は、ケニアの教会軍(Church Army)から始まった。ドドマのセント・ジョンズ・カレッジで神学を学び、主教として按

手されるまでカレッジでそのまま勤務を続けていた。ジョージ主教の妻モニカさんと6人の子供たち、父親と親族たち、ムブワブワ教区の人々、そしてタンザニア聖公会のために祈りが求められている。

〇うつ病と共に生きる人々をサポートする教会主催のコース

□ ロンドンの都市サービトンの教会が、「世界メンタルヘルスデー」を迎え、軽度から中等度のうつ病や不安を抱える人々と支える人々を支援するため、6週間の無料オンライン・メンタルヘルス・コースを提供した。

「うつ病に希望を (Hope in Depression)」と名づけられた登録慈善団体が、2013年から教会を利用してこのコースを運営している。参加者はうつ病や不安症の原因・症状を探り、脳化学や薬物療法について学び、カウンセリングについて聞き知りながら、回復や健康維持の助けとなる臨床試験済み療法を探っていく。

教会側のコース責任者であるデニス・モリス氏は、2019年から年2回でオンラインのコースを開催している。モリス氏は次のように述べた。「Hope in Depressionは幅広い年齢の成人に対応しています。18歳から80歳まで、これまでにあらゆる年齢層の方々が参加してきました。多くのコース受講者が、気分や日々の対処能力が改善されたと報告してくれています。目覚ましいほどの効果を実感できています」

教会の最初のコースは2019年に対面で開催されたが、コロナ禍でオンラインに移行し、ロックダウン中にメンタルヘルスに悩む多くの人々の参加につながった。

〇アングリカン・コミュニオン常任委員会、「希望と高揚感」と共に会合をスタート

このほど、2019年9月以来の対面でのアングリカン・コミュニオン常任委員会が開催された。6名の大主教、2名の主教、司祭1名、信徒5名が、定例会議のために集まった。大多数がノッティン

グヒルにあるアングリカン・コミュニオン・オフィスとロンドンのランベス宮殿で出席し、3名のみオンラインでの参加となった。

△ 会議は、アンソニー・ポグゴ主教のアングリカン・コミュニオン・オフィス総主事就任式から始まった。事務所の礼拝堂で聖餐式が執り行なわれ、駐英国南スーダン大使のアグネス・オスワハ氏の出席のもと、カンタベリー大主教によって司式された。

会議の中で、常任委員会のメンバーは、今年の7月・8月にケント州カンタベリーで開催され、大成功を収めたランベス会議について振り返った。また、アングリカン・コミュニオン・オフィスの各チーム(全聖公会中央協議会、アングリカン・アライアンス、ランベス会議)から最新情報の報告を受け、議論を深めた。

また、アングリカン・コミュニオンの公式委員会や関連するネットワーク等からも報告が寄せられた。その中には新たなアングリカン・コミュニオン伝道委員会と弟子訓練委員会による目標も含まれていた。それは、すべての教区、パリッシュにおいて弟子訓練と弟子育成の運動を促進し続けるために「10年間で100万人規模の新教会を設立する」というものである。そしてまた、新しいアングリカン・コミュニオンの国際的な学校ネットワークの導入も提案された。

総主事は次のように述べている。「常任委員会のメンバーたちは、我々アングリカン・コミュニオンの現状について、大きな喜びと期待感をもってロンドンを訪れました。私たちの多くと同じく、ランベス会議の大成功を受けてアングリカン・コミュニオン全体の活性化と基盤強化の効果が得られ、元気づけられています」



新型コロナウイルス（COVID-19）に関連する 各教区の対応

北海道教区 原則として礼拝（公禱）を行なうが、各教会で判断

- 教会での礼拝は主日・週日いずれも定時に行かない、誰でも参加可能。
- 感染対応をこれまで通り実施しながらも、教会活動、ことに礼拝における実践を可能な範囲で少しずつ拡大していくことを勧める。（あくまでも「可能な範囲で」）
- 礼拝に関して不安や恐れがある信徒は自宅で礼拝を守ってもよい。

東北教区 原則として礼拝（公禱）を行なうが、各教会で判断（休止は主教に連絡の事）

- 十分な感染対策を取ること。（衛生用具の再点検実施の事）
（十分な換気、消毒、場合によっては入場者制限、飲食の休止、地域状況にも留意する、外部に呼びかけるプログラムは感染状況勘案の上決定すること。）
- 葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。
- 引き続き警戒は緩めないこと。（No.9 遵守のこと）
- 司式者のみ2種陪餐とし、奉仕者・会衆は1種陪餐とすること。
- 堅信受領者総会開催については十分な感染予防に徹すること。

北関東教区 礼拝（公禱）の再開または休止

- 各教会・礼拝堂で協議し、地域社会と共同体の状況により適切な対応を講じる。

- 葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

東京教区 礼拝（公禱）の公開または休止

- 感染状況の懸念が深まる中、各教会・礼拝堂での礼拝の公開などは、感染防止の対策の上、それぞれの状況にあわせて実施。
- 幾つかの教会・礼拝堂は公開の礼拝を休止している。

横浜教区 礼拝（公禱）の公開

- 「礼拝指針」（更新・2022年6月版）の徹底。
- 「新型コロナウイルス感染者発生時の教会対応ガイド」の順守。

中部教区 礼拝（公禱）の再開

- 主日及び週日の礼拝再開、休止については『礼拝再開に関するガイドライン』に基づき各教会で判断。
- 緊急事態宣言等下のエリアにある教会は原則礼拝等休止。
- 聖歌歌唱及び二種陪餐再開については主教に報告の上実施。

京都教区 各教会で判断

- 感染者が増加しており、引き続き感染防止対策は行う。
- 主日礼拝の方法は各教会の判断としている。

大阪教区 礼拝（公禱）の再開

- 各教会の事情には違いがあるので、各教会の判断を尊重する。
- リモートの活用などに引き続き取り組む。（リモートが使えない方へ配慮しつつ）

神戸教区 礼拝（公禱）の再開

- 教区自粛基準（4/4改訂）に従って礼拝を再開。

九州教区 礼拝（公禱）の一部休止

- 無理に主日礼拝に来ることをお勧めしない（体調の悪い方・公共の交通機関で教会に来られる方など）。

沖縄教区 礼拝（公禱）の再開

- 引き続き十分な感染症対策を行なう。（マスク着用、手指消毒、換気、会衆席の間隔確保等）
- 主日礼拝へは無理に出席しない（体調不良、濃厚接触等）。
- 陪餐（一種、二種）、聖歌の歌唱等は各教会で判断。

管区事務所 勤務体制の変更

- 4/4より当面の間、平日（月曜日～金曜日）10:00～17:30の勤務時間短縮体制。

- * 毎月1回、情報更新をいたします。管区のHPにも掲載（英語版もご用意）しておりますので、ご活用ください。

（2022年10月25日現在）

ヒルダ・ミッシェル叢書 のご案内

— 東京教区渋谷聖公会聖ミカエル教会 —

このたび、ヒルダ・ミッシェル叢書2と3を発刊いたしましたので、ご案内いたします。今日、本聖公会が置かれた状況の中で、内に向けては信徒の霊的発達、教会の体質改善、そして外に向けては人の心に届く宣教発信をと、教会の新たな可能性を模索する試みです。多くの聖職・信徒の方々にお読みいただきたくご案内申し上げます。

叢書1『魂の同伴者』 ケネス・リーチ著
関澄子／関正勝司祭訳 2300円

リーチは現代の教会にとって霊性、霊的ないのちの復興が不可欠であるとして、霊的指導の重要性と意義を説いています。キリスト教の伝統における霊的指導を踏まえた上で、霊性に向かうために祈りの生活を勧めています。さらには、祈りが個人的なものとなることのないように、カウンセリングや精神治療の問題も取り上げています。(2014年1月発行)

叢書2『自給している聖職者たち』

ジョン・リース著、中原康貴司祭訳、西原廉太主教監訳『英国の特任聖職の現状と課題』及び中原司祭の研究論文「特任聖職の歴史と日本聖公会における可能性」の合本 1500円

日本聖公会でも聖職者の減少にどう取り組むかを考えていかなければならない状況にあります

ですが、英国では信徒が自分の仕事を続ける中で、聖職の務めを担うという働きが勧められています。叢書2は、英国における特任聖職の現状と課題、さらにそれを踏まえた中原司祭の日本聖公会における可能性を論じた考察を合本としてまとめています。(2022年8月発行)

叢書3『信徒の働き』 山田益男著
関正勝監修 1800円

著者は、まずは信仰を持たない人々へ、次に教会内の信仰の友へと、語りかける対象を変えながら、また現代社会における課題や信仰の問題を取り上げて、文書活動を続けて来られました。その働きは、一信徒として教会のメッセージを平易な言葉で伝えるという姿勢で貫かれています。叢書3は、ヒルダ・ミッシェル信徒講座の紹介を含め著者の文書活動を『信徒の働き』という題で一冊にまとめたものです。(2022年6月発行)

申し込みは渋谷聖公会聖ミカエル
教会までFAXまたはE-mailにて

FAX: 03-3409-2938

E-mail: shibuya.st.michael@gmail.com

なお、送料は当教会が負担いたします。また、叢書1, 2, 3, をまとめてお求めの方は5,000円に割引いたします。



日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。